

M. W. (社会システム学科・2年次生)

I. 留学レポート

私が留学を真剣に考え始めたのは、1 回生の秋学期です。もともと英語を喋れるようになりたいと思っていたし、海外にも興味があり、大学に入った時から留学することを考えていました。しかし、中学、高校で行った短期留学でもずっと日本に帰りたと思うばかりだったのに、長期の留学は自分に本当に続けられるのか不安でなかなか踏み出せないままいました。その時に同じクラスの友達が、留学に興味があったらしく、一緒に国際交流センターに相談しに行こうと誘ってくれました。それまで、このセメスター留学があることさえ知らなかったもので、この留学を知った時、中期なら自分でも頑張れると思ったので、この留学に行くことを決断しました。

留学を決意してからは、カナダに行って少しでも早く現地の人とコミュニケーションを取れるようになるため、リスニングの練習として、スマートフォンで NHK の英語のラジオアプリをとって、通学時間中に聞いたり、海外の映画を借りてきて、英語の字幕つきで見たりしていました。後は、出発前に受ける TOEIC の点数が少しでも上がるように、大学の book store で本を買って、毎日少しずつ勉強しました。バイトなどで忙しく、期間も短かったので、「3 週間で TOEIC の点数が上がる」と書いてある本を選びました。TOEIC を受けたのは初めてだったので、実際その勉強が点数に反映したかは分からないけれど、問題を早く解くコツが分かったので、TOEIC の問題も最後まで解けたし、Manitoba 大学で所属するクラスを決める Placement test にも少し役立ったのではないかと思います。

ウィニペグ空港ではホストファミリーが迎えてくれ、空港から 1 時間ほど離れた家に車で移動しました。帰り道に携帯の契約に連れて行ってもらったり、週明けから始まる学校の為に、大学を見に行ったり、大学までの交通手段を教えてもらったりしました。オリエンテーションでは日本の大学生がほとんどで、他に韓国、チリの学生も一緒に参加し、すぐに友達になりました。オリエンテーションの日にクラス分けがあり、一緒に行った同女の二人とは、別のクラスになり、最初はとても不安でしたが、マニトバ大学の先生や友達の支えもあって、すぐにクラスになじむ事ができました。週末にはアクティビティがあり、色んなところに行ったり体験しました。アクティビティに参加するたび新しい友達ができるので毎回参加しました。木曜日の放課後には conversation café といって、お菓子を食べながら色んな国の人と話が出来る機会があります。カードゲームをしたり、お話をしたり、友達を作るのに一番いい機会だったと思います。

ボランティア活動は folkrama という世界の文化を紹介する大きなイベントに参加しまし

た。私が仕事をしたのは日本のパビリオンだったので日本に興味のあるカナダ人や今度日本に来る学生の人たちと知り合えたので参加して良かったと思います。

長期休暇が 2 か月に 1 回あります。日本から旅行するより安いので、ラスベガス、グランドキャニオン、トロント、バンクーバーに行きました。IEP のアクティビティーの一環としてバンフ旅行があります。バンフでは普段見る事の出来ない景色を見たり、色んな事を体験して、とてもいい経験でした。

II. 留学の感想

行く前までは友達ができるか不安でしたが、マニトバ大学ではアクティビティリーダーが毎週色んなアクティビティを計画してくれるので、毎週末家にこもる事なく、有意義に過ごせました。アクティビティの内容は季節によって変わり、イースターにはエッグペイント、5 月にはゴーカートや蛇をさわられる公園、暖かくなってくると、ビーチや動物園、カヌーなど、日本ではあまりしないような体験をしました。また、マニトバ大学には大きなスタジアムがあるため、ワールドカップの予選をタダでみたりできました。また、クラスには色んな国からの留学生がいるので、語学だけでなく、文化や政治なども学べて、自分の視野が前より広がった気がします。何より嬉しかったのは、それぞれの国に行った時に案内してくれる友達ができただけでなく、その後もずっとつながってられる友達ができただけでなく、今回の留学の最大のメリットだったと思います。

春セメスターに行くとは 2 か月に 1 回、週間ほどの休みがあり、その間にいろんな所に観光に行けました。ツアーなどではなく、自分たちでプランを決めたので、交通面や、ホテルなど色々な不安はありましたが、周りの人たちがとても親切で、その人たちに助けをもらいながら、旅行を楽しみました。なかには道を尋ねると、わざわざガイドしてくれた人もいました。これらの旅行で日本では出来ない事をたくさん体験したし、カナダも都市によって全然違う事も発見できました。また、アメリカに行った事で、カナダとアメリカの違いや文化も学べました。毎回旅行に行くのはお金がかかるけど、これらの旅行も私にとっては留学の一環でした。

この留学で一番苦労したのは、食全て自分で用意するという、私のホストファミリーのルールです。私の家はホストマザー 1 人だったのですが、毎日仕事で忙しいため、自分の事は自分ですするという決まりでした。最初のうちは、何でも自分の好きなように出来るので満足していました。しかし、私は料理が得意ではないのと、ホストファミリーの用意する食材が日本とは違って、調理の仕方が分からないので、毎日サンドイッチを食べていました。そして朝と夜は食べなかつたりして、食生活が健康的では無かったため、肌荒れを

したり、ぼーっとしている時が多々ありました。最終的にはホストファミリーに欲しいものをリストアップして買ってきてもらったので、不満があれば相談する事は大事だと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

この留学で一番必要だったものは、iPhone です。iPhone はよく授業で使います。iPhone 以外のスマートフォンでも大丈夫だと思いますが、先生によっては、iPhone でしかとれないアプリをとるように要求してきます。その場合は、他の友達に借りることもできますが、自分のものがあつたほうが便利だと思います。また、Transit というアプリがあるのですが、そのアプリで、バスの乗り換え案内などを調べる事が出来ます。Wi-fi がなくても自分の現在地やバスの時間を調べられるのでとても便利でした。

もう一つ便利だったのは、USB です。授業の一環でプレゼンをよくやります。そのときに、パソコンを持ち歩かなくていいように USB にデータをいれておけば、毎回パソコンを持ち歩かなくていいので楽です。プレゼンの時は先生のパソコンを貸してもらったり、教室ごとに設置してあるので、それを使えます。また、私の場合は、USB をいっぱいになった iPhone のデータをうつすためにもりようしていました。

語学力は行く前より向上したと思います。行く前までは、自信が無かったので、話しかけるたびにとまどっていたし、話しかけられるたびに緊張しましたが、慣れてくると、自分から話しかけられるようになったし、毎日違う国の友達と話すのが楽しくなりました。話す事に慣れるためには、アクティビティーに参加したり、週末や放課後に友達と遊びに行く事が一番だと思います。またホームステイの場合、出来るだけ家族と一緒にいられる時間を作る事です。

語学力だけではなく、自分自身も成長したと思います。留学に行く前から、色々な手続きを自分でしたり、留学中も色々なトラブルを自分で解決してきたので、行く前までは、自分でする前に親や友達に頼っていたけど、今は、誰かに頼る前に自分でしようとする力がつきました。留学に行ったらたくさん自分で解決しなくてはいけないような事があります。それをまず自分でどうにかしてみるの自分自身の成長につながる大事なことだと思います。

Ⅳ. 将来の目標

私の将来の夢は旅行会社に入って、国内で外国の方に向けて旅行を企画したり、ガイドしたりする事です。今私は外国人向けのガイドのボランティアをしています。留学前までは、自分の英語に自信が無かったのでボランティアにあまり参加していませんでしたが、

帰ってきてからは、積極的に参加するようになり、ガイドするだけでなくゲストの方の国の事なども聞けてすごくやりがいを感じています。

今はまだ慣れていないので、アシスタントとしてやっていますが、将来的には、一人でも出来るようになればと思います。旅行業務管理者の資格とることと、英語のスキルを落とさないように、このまま勉強し続けていきたいと思っています。



IEP の旅行で行ったバンフです。きれいな湖でカヤックをしました。
この湖のほかにも、きれいな景色をたくさん見たり、ラフティングやハイキングなど
アクティブに動いたり、普段できない体験がたくさんできました。



クラスの皆でメキシコの子たちのお別れ会もかねて、ピクニック。
韓国、中国、メキシコ、チリ、コロンビア、タイ、日本と、多国籍だけど
全員仲が良くて楽しいクラスでした。

M. Y.（社会システム学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私がこの Semester 語学留学に参加しようと思った動機は、留学することが大学へ進学してからやりたいことの一つだったからです。将来就きたい特定の職業があるわけでもないけれど、海外へ行って英語を学びたいという漠然とした目標を達成するために、いましかないと思って応募しました。なにより、一切の英語の資格も持たない私にはこの語学留学プログラムがすごく魅力的でした。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後から出発までの間は、単語を中心とした英語の勉強の計画をたてましたが準備やその他の私情で思い通りに時間も作れず、実際半分ほどしか実行できませんでした。準備の中でも私はカナダに半年未満の滞在予定だったのでビザの申請などはしませんでした。飛行機の乗り換えがアメリカだったので ESTA というビザを取得する必要がありました。このビザはインターネットから簡単に申請できます。留学中にアメリカへの旅行を考えているのならこのみちこのビザが必要になるので、留学前に取っておくと大変便利だと思います。

③ 現地到着後

現地到着後に関してまず、ホームステイを予定の方ならホストファミリーが、寮を予定している方なら学校のスタッフが空港まで迎えに来てくれます。ウィニペグの移動手段は主にバスです。個人的に空港へ行き来したい場合はバスが通っているのでそれを利用します。学校も同じです。バスの利用に関しては、学校初日に校内でバスパスを買うことをお勧めします。Monthly bus pass といい一か月おおよそ\$70 です。か月間使い放題のフリーパスで週末のお出かけの際も利用できます。学校初日の行道だけ、コインで乗るかバスチケットという回数券のようなものを事前においてそれを使うしかないので気を付けてください。

④ 語学研修機関

マニトバ大学は同志社女子大学よりも倍あるいはそれ以上大きい敷地面積です。生徒も世界中から来ているので外国人だと目立つことはありません。留学生にとっては凄く馴染みやすい大学でしょう。授業は留学生と先 2 生のみで行われます。先生によって授業の教え方が違うので合う・合わないは多少あると思います。課題の量もその先生次第です。ですがどの先生もそれほどたくさんの課題を一気に出したりはしないと思います。試験は日

ごろから真面目にやっていたら心配する必要はありません。コンピュータテストなので、打ち間違いなどに注意したほうがいいでしょう。

⑤ 現地での住まいについて

私は学校の近くのお家にホームステイしていましたが、交通の便もよく、ホストファミリーも親切ですごく恵まれた環境にいたと思います。留学生を受け入れた経験のある方だったので、私の拙い英語も理解してくださり、ご飯も中華料理やお味噌汁といった日本料理を作ってください本当に優しい方でした。

⑥ 長期休暇の過ごし方

試験後の長期休暇は旅行へ行きました。バンクーバー、トロント、ラスベガス、グランドキャニオンなどです。1週間程度お休みがあるのでゆったりと時間を使えます。アクティビティも土日や長期休暇にあります。随時 Facebook でアクティビティ情報が更新されるので要チェックです。自分ではいけないところや、有料施設が無料で行けたりするので絶対行ったほうがいいです。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中は様々な体験をしました。中でもなにより、生まれた国、宗教、話す言語が違う友達と英語を喋ってコミュニケーションをとっていた時間が楽しかった思い出です。この留学が初めての海外渡航でもあった私にとって、現地の環境すべてが日本とは違い驚きの連続でした。見渡せばすべてのものが英語表記というそんな当たり前なことまでも、です。個人的に予想外だった出来事は、長年ファンだったビヨンセのライブを見に行けたことです。自分でチケットを入手して少し大変でしたがとても良い思い出です。これもある意味、日本ではなかなかできないことをできたなと思いました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

苦勞した思い出はないです。ホームシックも一切ありませんでした。あえてあげるとすると、ウィニペグはすごく田舎なので遊ぶ施設がすくないことです。留学も後半に差し掛かったころには、少し飽きてしまっていました。ただ自然豊かな落ち着いた雰囲気はまたウィニペグの良い所でもあります。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化・習慣については”挨拶”について一番違いを感じました。エレベーターの中、バスを乗り降りするとき、とにかくどんな些細な瞬間でも”hallo” “Good morning” “Thank you” など欠かさないという習慣が、素晴らしいなとおもいました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

まず持ち物では、パソコンは授業でもプレゼンをしたりするので必要になります。携帯は向こうの wi-fi のある場所を探して使っていたらなんとかやっていますし、現地であえて買う必要はないと思います。筆記用具は日本から持っていくことをお勧めします。なぜかという、日本のもののほうが使いやすいからです。ノートに関して、ルーズリーフは日本のものと大きさも穴の数も違うので、日本からもっていくのかあるいはすべて現地で調達するくらいで考えていたほうがいいです。帰国するときは来た時よりも荷物が多くなると思うので、圧縮袋などついでに余分に用意しておくとう便利です。シャンプーなどは、パンテーンなどどこにでも売られているので日本から多めに持っていく必要はないです。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学期間中、一番初めに養われてくるのはリスニング力だと思います。スピーキングはどれだけ毎日喋るかによって変わってきますが、リスニングは言ってみれば嫌でも英語しか聞こえない世界にいる分、慣れる速度も速いということです。初めは相手が言っていることも分からず、自分が言いたいことも上手くいえずもどかしい時期が続くと思いますが、それは慣れが解決してくれるとおもうのでとにかく英語の世界から逃げずに身を置いて下さい！

また、留学前後で英語力が変わるのはもちろんのことですが、私の場合は授業での発言への積極性が高まったように思います。ほかにも多少のことは気にしないタフな精神力などもついたかなと感じます。ある意味、そこを成長させていかないとやっていけません！！文化の違いを受け入れるにはまずはタフな精神力からです！細かい事を気にしてはマイナスなことだらけだと思います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

これから留学へ行く人へのアドバイスですが、留学期間中の時間は一秒でも多く英語、または他の学びたい言語と関わる時間を増やして下さいということです！あまり考え過ぎてもどうしようもない問題の方が実際多いです。時間が解決してくれるときもあります！無理しない程度にできるだけその言語と関わる時間を増やしてもらいたいと思います！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路はまだ不確かですが、将来自分に与えられる選択肢を増やすために英語の勉強を続けていこうと思います。



この写真は学校から BANFF TRIP でカヌーへ挑戦したときの写真です！湖の水の色がエメラルド色でも綺麗で感動的でした！BANFF ではその他にもカナディアンロッキーを見に行ったり、日本では味わえない自然の壮大さを感じました。学校からのアクティビティなので、自分たちで旅行の計画をする必要もなく思いっきり楽しみました！



これはウィニペグでビヨンセのコンサートが行われた時の写真です！海外全てに当てはまるのか分かりませんが、コンサート中写真を撮っても動画を撮ってもオッケーでした！意外なところで日本との違いを感じました。私はビヨンセの大ファンでどうしてもこのコンサートに行きたくて一人で乗り込んだのですが、周りに臆することなくすごく楽しませてもらいました！

R. S.（英語英文学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、英文科に在籍していますが、高校の時からあまり英語は得意ではなくネイティブと会話するのも苦手でした。しかし、海外旅行や外国の文化が好きで、このまま英語に苦手意識を持ったまま大学生活を過ごしたくないと考え、大変な事を覚悟して思い切って留学しようと思いました。また、私は建築やインテリアが好きなので、大学の中に海外の生活を体験してみながら、カナダの住宅建築を身近で感じたい思いも強かったからです。留学での最終目標は TOEIC の点数を伸ばすことと、英語に抵抗感がなくすることでした。大学4年間で半年留学は長い期間だと思い留学に行くことを悩んだりもしましたが、セメスターの締切りも迫っていたので思い切って申し込み、あっという間に出発日みたいな感じでしたが、結果的には留学して本当に良かったと思いました。日本での半年は長いですが、私にとってカナダでの生活は新鮮な事ばかりで、毎日が刺激の日々だったので6か月が短く思えたのかもしれませんが、しかし、とても充実していて、留学を迷っていた私でも心から言ってよかったと思えますし、明確な理由や目標があれば越したことはありませんが、行ってみたい、学びたいという理由だけでも留学は満足し充実した経験になると思います。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学準備期間は、12月中旬ぐらいにセメスター留学へ行けることが決まり、三月下旬にはもう出発日でした。約3か月の間に、航空券・ESTA（アメリカ短期入国の際必要なもの）・持ち物の準備などします。また、TOEICの受験と、留学前の事前授業などもあり、準備期間はたっぷりはなかったです。航空券は年末までには手配していました。帰国の際の分も同時に申し込みをしていました。留学出発までは極力、英語の映画をみたりして英語に慣れようとし、また日本の文化なども説明できるように勉強していきました。期間は短いので、最後の方は準備があたふたしました。

③ 現地到着後

カナダに到着してからは、空港にホストファミリーが迎えに来てくれていたので安心でした。行く前からメールで連絡を取っていたので、顔写真をお互いに送りあっていたし、飛行機の時間も伝えていたので、すんなりとホストファミリーと合流することが出来ました。大学最初の日、ホストマザーが大学まで送ってくれ、帰りのバス停なども丁寧に教えてくれました。バスの乗換えや、時間が分かるアプリがあったので、wifiがある大学や家で調べてから、出かけたりもしていました。また、wifiがある場所はスターバックス・ティムホ

ートン・マクドナルドなどの有名なファーストフードとショッピングモール、あとは家と大学でした。大学のオリエンテーションではピザが出たり、ドーナツが出たりして、それを食べながら説明を聞き、他の学生と親睦を深めたりしました。最初は英語も早いし、多国の英語もよく分かりませんでした。留学に来たんだとそこで実感しました。クラス分けは、日本でパソコンで受けていったテストで判定が出ていました。

④ 語学研修機関

毎週金曜日にアクティビティがありました。マニトバのホットスポットへスクールバスで連れて行ってくれたり、IEP のメンバーでパーティなどを企画してくれたりしました。アクティビティリーダーが親切で分からないことがあればすぐに教えてくれるし、積極的に話しかけてきてくれました。授業内容は、2 か月ごとに final test という試験があり、それに受ければレベルが上がります。1 クラスだいたい、約 15 人で、その中に日本人は 3 人くらいでした。2 時間の授業が 1 日に 3 回あるタイプの日が週に 3 日、2 時間の授業が 2 回の午前中までのタイプが 2 日ありました。授業内容は、クラスのレベルによっても違いますが、基本積極的に答えを言っていく感じでした。受け身な授業ではなく、周りとのディスカッションも取り入れた感じでした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Final test の後には、1 週間の休日があるので、私はアメリカやカナダを旅行しました。半年滞在していたので、計 3 回の休みがありました。バンクーバー、トロント、バンフなどに行き、アメリカではラスベガス、グランドキャニオンへ行きました。バンフは大学からのプログラムだったので、バスで 16 時間かけて行き、とてもいい経験になりました。学校の放課後では、ショッピングモールへ寄ったり、映画を見たり、お茶したりと沢山楽しめる場所がありました。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先はバスで約 1 時間過ぎかかり、留学生の中でも遠い方でした。朝が早いので、ホームステイを変更したいなとも思いましたが、ホストファミリーが良い方だったのと、通学時間も本当の日常会話や日常風景が楽しめるので、変更はしませんでした。食事は、ほぼ毎日夜ご飯は作ってくれました。ランチと朝ごはんは、自分で勝手に作っていました。冷蔵庫のものなどは、なんでも使って良かったので気楽に生活出来ました。洗濯機もいつでも使って良かったので、週末に自分で選択し、自室内に干していました。シャワーの時間も特に制限されていませんでした。金曜日の夜はホストファミリーの孫の子供たちがやってくるので、毎週パーティみたいでした。デザートなどもあり、楽しかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

1 週間の休暇が 3 回あったので、友達と旅行しました。トロント、バンクーバー、グランドキャニオン、ラスベガスです。一回の旅行にだいたい 10 万以下ほどで行け、日本から行くよりも安いので留学中にはたくさん旅行するべきだと思います。自分たちで航空券やホテルなどを手配するのも初めてで、トラブルもありましたが、すごくいい経験になったと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

旅行が一番楽しかったです。日本にいたときは、海外で自分たちで航空券を手配し、旅行することは分からないことも多いし怖いなと思っていましたが、実際にやってみると出来るものなのだと思いました。電話での英語の会話は、表情とかも読み取れないので難しかったです。でも、やり終えると自分が成長したと感じられました。他には、ホストファミリーとの生活も楽しかったです。パイやマフィンも作って貰ったり、毎週金曜日の食事会や、時々BBQ やカラオケをしたりしました。みんなが本当にフレンドリーで親切だったので私もすんなりその場に馴染め、毎週が楽しみでした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私は特につらかったことはありませんでした。ホストファミリーも親切だったし、授業でもたくさん友達と会話が出来たし、日本が恋しくなったら skype をしたので、あんまりホームシックになることもなかったです。日本料理が食べたくなることもありましたが、マニトバにはいくつか日本料理店もあるし、スーパーでも日本の調味料が豊富でした。移民が多いカナダなので、たくさんの国の料理がありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

夜が 9 時くらいまで明るいので、ホストファミリーが遅くまで起きているのに驚きました。8 月では 10 時でも日本の 5 時ごろの明るさなので早く寝たい時は明るすぎて寝られないのでアイマスクをしていました。少し困ったと感じたのは、マザーが寝られないときは朝まで音楽をかけながら眠るので、ほぼつながっているような部屋だったのでそんな時は少し寝つきが悪くなったりもしました。でも私はどんな環境でもある程度寝られるので気にしなかったです。ほかのホームステイしていた子は、夜中からパーティとかも頻繁にあったみたいなので、ホームステイの人にはちゃんと言わないと気付いて貰えないのも、文化の違いだなと思います。あと、留学に行くと海外の人は時間にルーズだとよく言われましたが、カナダの人はそうでもありませんでした。それよりもほかの国の留学生のほうがル

ーズだったので、カナダのアクティブリーダーが困っているほうが多かったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

基本カナダには、生活用品は日本と変わりのないくらい揃っています。日本のものでは、生理用品・爪切り・ドライヤー・コテ・コンパクトな洗濯干し・パソコン・ヒートテック・文房具です。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

英語への恐怖感がなくなり、以前よりも外国が近くなったような感じがします。なので、日本へ帰ってきてからも英語の勉強への意識が変わって、前までだと義務だと感じていた学習が率先してやるようになりました。そうすると頭へ入ってくる量も集中力も違います。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

まず1年と半年の留学は全く違います。私は留学行く前は留学出来るなら1年でも半年でもどっちでもと考えていましたが、1年は本当につらいと思います。でも1年はその国のイベントや季節をすべて体験できるのでいいなと思います。私もカナダでの冬で生活し、オーロラも見てみたかったです。留学を迷っている人は、よく考えてからのほうがいいと思います。私は勢いで参加しましたが、2回生の春で友達を楽しそうにしているのを見るとうらやましくなったりもしました。でも、帰国してみると私にとってすごくいい経験になり、また英語に消極的な私への自信ともなったので満足しています。